

- 日時 : 令和8年3月24日(火) 13時30分～
- 場所 : 海田町役場 1階 多目的室 1-1B
- 出席者 : (会長) 呉工業高等専門学校 神田教授 ほか委員10名 ・ 町事務局

○ 会議次第

- 1 開会
- 2 報告事項
 - (1) 循環バス利用状況について
 - (2) 循環バス利用促進キャンペーンについて
- 3 協議事項
 - 循環バスの運行見直しについて

	【開会】
事務局	報告事項(1) 循環バス利用状況について説明
会長	振替便の利用者数に変化があったか。
委員	数字として表れてはいない。乗り残しの方なのか、単純に路線バスに乗ろうと思って乗られた方なのか分からないため、比較は難しい。
会長	もうしばらく様子見か。
委員	半年経過したため認知は浸透していると考える。これから春になるので、利用も増える可能性があるため、引き続いて様子をみたい。
委員	乗り残しが増えた要因は、単純に利用者が増えたからという認識で良いか。
事務局	お見込みのとおり。全体のベースが上がってきたため、少しでもニーズが集中してしまうと乗り残しが発生してしまう状況とみている。
会長	去年のユニークユーザー数は？
事務局	ユニークユーザー数について、R6年度は継続的に数を把握していないが、R6年8月のICカードID数から求めた数は約900人。
会長	8月だけで昨年と比較すると、ユニークユーザー数は100人ほど増えている。要因は？
事務局	免許返納と相関があるのではと見立てている。免許返納者はR元年から累計で600人程度いるため、利用者増に寄与していると考えられる。
委員	子連れの利用者の方を最近見るようになった。最近の子育て世代から高齢者まで幅広く利用してもらえている。
会長	お年寄りだけではなく、子育て世代も含め、まだまだ掘り起こす需要がありそう。
委員	R6年度の3月の伸びが2月に比べて大きい。要因は？
委員	南ルートになるが、部活をしている学生が総合公園に行くためによく利用される。また、総合公園は桜の名所でもあるため、例年利用される方が多い。
事務局	報告事項(2) 循環バス利用促進キャンペーンについて説明

会長	アンケート回答の内容から、今回のキャンペーン参加者は比較的利用頻度が高い方が多かったことがわかるが、そもそも普段からこのくらいの割合なのか。
事務局	R6年度に循環バス利用者に対して実施したニーズ調査アンケートでは、概ね同じくらいの割合だった。
委員	質問が2点ある。1点目、アンケートの回答方法について。 2点目、キャンペーンの周知方法として、チラシ・ポスター以外にSNS等で発信したか。
事務局	アンケートの回答方法について、スタンプカード兼アンケート用紙をバス車内及び公共施設へ設置、アンケート用紙のみのもの公共施設に設置、Webからアンケートに回答できる方法も用いた。 周知方法について、町のホームページ、LINE、Instagram、X、Facebookに掲載した。 加えて、Googleのポップアップの広告も出した。
会長	今回のキャンペーンを実施しないより、実施したことで利用者が増えたのは事実。バス全体のPRをする機会にもなった。短期的な評価をするのではなく、中長期的な視点で動向をみていきたい。
委員	今回獲得したユニークユーザーを定着させるために、次年度に向けて何か考えているか。
事務局	今回のアンケートでサブスク・回数券のニーズ把握を行ったため、今後検討していく。 また、商業施設との連携について、他市町で好事例があるため、本町においても取り入れたいと考えている。
会長	次の策を絶え間なくしてほしい。
委員	今回協力してもらったスーパーの反応は？ 町内商業施設と連携して、町の経費をかけずに、割引券などが利用者に渡せるシステムが構築できないかと。
事務局	話をもち掛けた際に前向きな回答をくれたスーパーもあるため、協議を進めていきたいと考えている。
委員	アンケート回答者のうち83%が今後キャンペーンが無くても利用すると回答したことについて。 日々利用する人が今回のキャンペーン期間中さらに利用するのは当然のこと。 むしろ、22.7%の人が今回キャンペーンにより利用した。そのうち、一部の人は今後キャンペーンがなくても利用すると回答しているため、前向きに捉えることができる。
事務局	協議事項 循環バスの運行見直しについて説明
委員	運行ルートの見直しについて、ODデータは3日間だけで良いのか。
会長	あくまで数字は1つの目安として、各々のバス停の事情があるため、個々に精査することが必要。
委員	現在の乗務員は大型二種免許保持者が100%か。
委員	現在乗務員全員が大型二種免許をもっているが、運転手の数は減っている。 今後の運転手不足が懸念される。
会長	乗り残し対策とルートの見直しについて、具体的にいつ頃を目途としているか。

事務局	<p>車両改造については、運行事業者との協議も必要ではあるが、車検が12月なので一つの目途か。ただ、乗り残しが発生している実情からできる限り早急に対応したいと考えている。</p> <p>運行ルート見直しについては、R6年度のニーズ調査の3日間のODデータだけではなく、モビリーデイズのODデータ及び現行の46箇所のバス停の特徴も踏まえて総合的に判断し、次回の公共交通会議で経過についてお示しできればと考えている。</p>
委員	単純にバス停を削るという選択肢ではなく、9便のうち便毎にルートを分けるのは難しいか。
事務局	先程のデータ分析から、ニーズを踏まえ、最適なルートを通すことができれば良いと考えている。
委員	マクロとミクロの両方の観点からケアできるのが最適。
会長	年度の後半にかけて乗り残しが起こっている傾向があるため、来年度も同様の状況だとすれば早めの対応が望ましい。また、乗り残しパターンを調べておいた方が良い。
委員	昨年度と比べ、乗り残しのバス停が変わっているように見えるが。
委員	北ルート右回りは、海田市駅出発時点で満席の状況が多い。
会長	3席増やせば何とかなるのか。
委員	現状は何とかなりそう。
会長	<p>先を考えると、3席でも足りない状況が数年後には起こりそう。</p> <p>ただ、乗り残し対策として今すぐできる車両改造は行うべき。</p> <p>中長期的な目線で見ると、3席でも足りない状況が考えられるので、次の対策の検討を進めておくこと。</p>
委員	特定財源の有無の見込みは。
事務局	調査中。
会長	12月に運賃改定を実施した反応について。
委員	運賃改定についての苦情は入っていない。
会長	今回事務局から示された方向性で進めていくことについて異論はなし。中長期も見据えて取り組んでいただきたい。
委員	乗り残しには、次の便を待つより歩いた方が早いから乗らないというように表に出ない乗り残しがあるはず。
会長	利用者は信頼の積み重ねで増えていく。利用者が安心して気持ちよく乗れるように、バスには乗れるという信頼だけは崩さないでほしい。
	【閉会】